



ハイナイト祈禱課題 2026年9月号

1. 世界で「常態化」する反ユダヤ主義を覚えて

昨年、イスラエル国外で、反ユダヤ主義的な事件で殺害されたユダヤ人は20人。前年の一人から大幅に増え、過去30年以上で最悪となりました。ユダヤ人団体は、反ユダヤ主義が、今や「新たな日常」になっていると警告しています。

フランスでは、昨年1570件の反ユダヤ的事件が報告され、2022年に比べて4倍となりました。イタリアでは、旅行中のイスラエル人やユダヤ人の居場所を報告するインターネット上の仕組みまでつくられました。これは削除されましたが、ユダヤ人攻撃に利用される危険性がありました。ミラノのユダヤ人代表は、イタリアに1930年代のような「ユダヤ人狩り」が再来することを恐れていると述べています。

反ユダヤ主義は、キリスト教会にも影響を及ぼしています。7月、英国国教会の総会では、イスラエルを「ジェノサイド」「植民地主義」「アパルトヘイト」と非難する「カイロス・パレスチナII」という文書を支持する決議が、圧倒的多数で可決されました。イギリスのチーフラビ、エフライム・マーヴィス師は、英国国教会のカンタベリー大主教に、「多くのユダヤ人が深い苦痛を感じている」と伝え、関係修復の必要性を訴えました。

10年前、EU議会で、イギリスのチーフラビ、故ジョナサン・サックス師は、こう語りました。「ユダヤ人への憎しみは、ユダヤ人だけで終わりません。ヨーロッパそして、文明の自由に対して、脅威であることを認識しなくてはなりません。ユダヤ人を嫌う人々は、自分たちの失敗を受け入れる

ことができず、他の人のせいにしたい人たちです。反ユダヤ主義は、複雑な世界を単純化して、善と悪、加害者と被害者に分け、その矛先をユダヤ人やイスラエルに向けます。ユダヤ人さえいなくなれば、イスラエルという国さえなくなれば、すべての問題が解決すると考えるのです。またユダヤ人への憎しみは、中世では宗教、近代では人種、現代ではイスラエル国家を理由に、形を変えてきました。しかし、本質は同じです。反ユダヤ主義を容認した国では、自由、人権、宗教の自由が崩壊していきます。憎しみに駆り立てられて進んで行く国家は、敵を破壊しようとしませんが、結果、破壊されるのは自分なのです」

サックス師の10年前の警告が、今、現実となっています。反ユダヤ主義が「当たり前」となろうとしている今、私たちはこの流れにのみ込まれず、みことばを握り、イスラエルとユダヤ人と共に立ち、祈り続けましょう。



「ユダヤ人への憎しみは、ユダヤ人だけで終わらない…」
警鐘を鳴らし続けた英国チーフラビ、故ジョナサン・サックス師
©cooperniall from England CC BY 2.0

ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。(エペソ6:13)

- ①世界各地で高まる反ユダヤ主義からユダヤ人が守られ、安心してユダヤ人として生きることができるように。
- ②クリスチャンが、反ユダヤ主義に流されることなく、みことばに堅く立って、祈り、愛を実践し続けることができるように。
- ③世界に激しい反ユダヤ主義の嵐が吹く中であって、キリスト教会とユダヤ人の関係が守られ、祝福されるように。

2. 日本における相次ぐ自然災害を覚えて

2016年の熊本地震から10年。今年7月、再び熊本県を最大震度7の地震が襲いました。亡くなられた方は約40人、負傷者は約360人に上り、住宅被害は3万棟を超えます。水道も大きな被害を受け、

発生から3週間がたった8月16日時点で、約1万戸が断水中です。厳しい猛暑の中、断水は衛生面の懸念と生活への大きな負担となっています。

この苦難の中で、キリスト教系の災害支援団体も

すぐに支援を開始しました。10年前の熊本地震の経験が生かされ、全国的な支援ネットワークも広がり、地元の各教会や団体が協力して支援を進めています。支援物資の提供をはじめ、片付けや家財の搬出、炊き出しや学童支援など、行政の支援が行き届かないところで、教会やキリスト教団体による、まさに「破れ口に立つ」支援が続けられています。特に一人暮らしの高齢者の中には、「自分一人ではどうすることもできない」と不安を抱える方もいます。クリスチャンの支援を受け、「皆さんの明るさに励まされました」と語る方もいました。

熊本では、2020年7月の豪雨で球磨川が氾濫し、67人が犠牲となりました。さらに2025年8月の豪雨でも4人が犠牲となるなど、度重なる災害に見舞われています。災害は熊本だけにとどまりません。8月、千葉県を記録的な豪雨が襲い、8月18日時点で、13人が亡くなり、1人が行方不明となっています。住



2016年の熊本地震から10年、再び熊本県を最大震度7の地震発生
©防衛省(Ministry of Defense, Japan) CC BY 4.0

宅被害は2千棟を超えます。千葉県は国に激甚災害への指定を要請する方針です。

自然災害が相次ぐ中、今なお困難の中にある被災者と、支援にあたる教会や団体のために祈りましょう。また、災害の多い日本にあって、私たちも物質的な備えと共に、祈りによっても備えてまいりましょう。

神は われらの避け所 また力。苦しむとき そこにある強き助け。(詩篇46:1)

- ①被災地域が一日も早く復興し、人々が安心して日常を取り戻せるように。
- ②支援活動を行う教会や各キリスト教団体の働きが守られ、主の栄光が現わされるように。
- ③被災した方々が、真の避け所である神により頼み、平安を頂くことができるように。

3. キッズプログラム感謝報告

～元BFPキッズプログラムスーパーバイザー
岸本麗美さんレポート～

祈禱課題3は、BFPエルサレムで4年間の奉仕を終えた岸本麗美さんからお話をお聞きます。岸本さんは、日本人ボランティアとして初めてキッズプログラムのスーパーバイザーに任命され、その務めを全うされました。映像をご覧ください。

映像はこちら▶▶▶



<https://youtu.be/PPbfpzELWiM>



キッズプログラムの支援を受けている子どもたちが、喜びと希望をもって、学校生活を歩み、家族や学校、地域にも祝福が広がっていくように！
Photo by Bridgesforpeace.com

「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——」(イザヤ40:1)

- ①キッズプログラムの支援を受けている子どもたちが、喜びと希望をもって、学校生活を歩み、家族や学校、地域にも祝福が広がっていくように。
- ②キッズプログラムの卒業生たちが、健やかに成長し、力強くイスラエルの未来を築いていけるように。
- ③より多くの子どもたちが、キッズプログラムの支援を受けることができ、クリスチャンからの愛がその心に届くように。



特定非営利活動法人 **B.F.P. Japan**(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイレイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org